

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

第二十一話

「江戸時代の地名改正」

「ビボクからニイカッフへ」(要約文)

今回は「新冠」という地名について、その歴史を紹介します。
新冠の地名に至るまでを、様々な古文書を通して紐解くと、大きく「ひほく系」と「いにかっふ系」に呼び名を分類することができます。

◇第一類 ひほく系

- ひらがな表記くひほく・ひぼく・びぼく
- カタカナ表記くヒボク・ビボク・ヒボク
- 漢字表記く毘保久(ひほく)

◇第二類 いにかっふ系

- ひらがな表記くいにかっふ
- カタカナ表記くニイカッフ・ニイカプ
- ニイカッフ・ニイガブ・ニイカッフ
- ニイカプ

- 漢字表記く尼葛弘・新勝府・新葛布
- 仁井加府・新冠・新頭

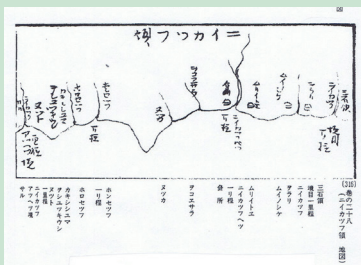
- 漢字とカタカナ表記く仁イ加ウ府
- ニ井カッフ

年代的には「ひほく」が古く、「いにかっふ」が新しい地名となります。

ヒボクからニイカッフの名称の変更は、江戸時代の末期(1800年前後)のことであり、アイヌの人々とは関係なく和人の都合で変更したものでした。カタカナで表記することが大半でしたが、明治

2年(1869年)に松浦武四郎による「郡名之儀二付奉申上候條」において、新冠郡として初めて明記して以来、この漢字が現在まで使用されています。

それぞれの地名の意味は、アイヌ語で「ビボク」と発音するもので、松浦武四郎は「転石が多く重なっていること」、永田方正は「岩の陰」と訳しています。ニイカッフについては「ニカプ」と発音し、秦樫丸は「木の訓なり。カは糸弦の名、プは器也。此木の皮剥ぎ採り、温泉にさらし紡績してアットシに製す。其木、此処に有し故名附けたる也。今は絶て産せず」と記しており、松浦武四郎は「其二カフと云は、二とは木の事、カプは皮と申事にと、榆棉また秦皮等諸木の皮を云り。此川すじ木の皮剥ぎ多く有るよしに号しものなり」とあります。現在、判官館岬付近の「ビボク」の地形は残っていますが、「ニカプ」としての新冠川流域の森林はほとんどが失われています。アイヌ語地名は、その地形や当時の様子を知る上でとても重要です。若い人たちには、これからも祖先が伝えてきた地名について大切にしてもらいたいと願っています。



「江戸時代における新冠近辺の地名が記されたもの」
松浦武四郎
『安政3年武四郎廻浦日誌』より

『春の全国交通安全運動』

- 運動重点
- 子供を始めとする歩行者の安全の確保
 - 高齢運転者等の安全運転の励行
 - 自転車の安全利用の推進
- 静内警察署

火災・救急出動状況 () かつこ内は前年同期			
区分	火災件数	救急件数	
2月	0件(1件)	19件(29件)	
2年1~2月	0件(2件)	46件(59件)	
交通事故発生状況 () かつこ内は前年同期			
区分	発生件数	死者	傷者
2月	1件(1件)	0人(0人)	1人(1人)
2年1~2月	1件(2件)	0人(0人)	1人(2人)

人のうごき

(令和2年2月末現在)

人口	5,489人	(前月比 + 1人)
男	2,687人	(前月比 - 1人)
女	2,802人	(前月比 + 2人)
世帯	2,762世帯	(前月比 - 2世帯)

町公式ホームページ

町公式フェイスブック

